

## 第8期第1回神戸市立図書館協議会協議内容

日 時：令和5年2月17日（金） 午前10時～11時30分

場 所：神戸市立中央図書館2号館3階 閲覧室(2)

出席者：(委 員)石塚委員、尾野委員、樋口委員、

桜間委員、密山委員、小野委員、湯浅委員

(事務局)中央図書館長、総務課長、総務課担当課長、利用サービス課長、

総務課担当係長3名、利用サービス課担当係長3名、総務課担当

傍聴者：4人

### 1 開会

第8期にあたって

- ・中央図書館長挨拶
- ・第8期委員のご紹介
- ・会長、副会長の選出

### 2 報告

- (1) 令和4年度市民満足度調査の結果（速報値）
- (2) 新館の整備状況（西・垂水・北・三宮の各図書館）
- (3) 新図書館システム導入による新たなサービスの開始
- (4) 令和5年度新館整備予算案の概要

### 3 閉会

#### 【会長、副会長の選出】

協議会委員の互選により、下記のとおり定まった。

会長：湯浅委員

副会長：桜間委員

#### 【報告（前半）】

事務局より報告。

**報告事項(1)「令和4年度市民満足度調査の結果（速報値）」（資料3）**

- ・調査結果（速報値）について解説。

**報告事項(2)「新館の整備状況（西・垂水・北・三宮の各図書館）」（資料4）**

- ・各図書館の状況について報告。

### 報告事項 (3) 「新図書館システム導入による新たなサービスの開始」(資料 5)

・1月31日に開始した新たな図書館サービスについて紹介。

#### 【報告事項に関する質疑応答】

- (会長) 事務局から報告いただいた。委員から質問ご意見をお願いしたい。どのテーマからでも結構である。
- (会長) 市民満足度調査では、神戸市以外の属性、芦屋市や西宮市が3.3%くらい。県外は0.5%。佐賀県の武雄市図書館など全国的に県外からの利用者が多い特徴をもつ図書館があるが、神戸市の図書館としては、県外からの利用者をどう捉えているか。
- (事務局) 県外の方が想像より多い印象。観光などで寄っていただいてもアンケートには回答いただいている。隣接都市の方には図書館カードの作成もできるので、利用していただきたい。
- (事務局) 古い図書館なので神戸市の古い資料を調査に来られることもあり、活用いただきたい。
- (会長) 質問の意図は、観光資源として発信力を持った新しい図書館を見に来た人など、神戸市の戦略が成功したか否か、自己分析・自己評価はどうか。
- (事務局) 神戸市全体で隣接市町といかに連携していくか、ご指摘いただいた点は非常に大事なことである。現在、淡路市を含む隣接8市町と連携しサービスを展開している。神戸市は市民を中心に、在住在勤の方、また隣接市町に居住の方に利用いただける。周辺の自治体の方とも図書館を相互利用できるよう、これからも進めていきたい。三宮など交通の便のよいところを通勤される他都市の方に使っていただくことはもちろん、神戸市民が隣接都市の図書館を使えるなど、うまく連携しながら図書館サービスを広げていきたい。
- (会長) 明石市市民の利用(0.9%)があったり、垂水区民があかし市民図書館を使っていたり、相互の利用があるということ。いろんな図書館が使えることで利用者が豊かになることは結構なことである。
- (委員) 若い世代の利用者がやはり少ない。年に数回の利用の方も5.9%なので、なぜなのか調べたいと感じる。SNS等に目がいき図書館で本を読む人や調べものをする人が減っているのかもしれない。お子様のいる方が絵本を見にこないのか、金曜日の平日ということもあるが、もう少し20代30代の若い方の利用があればよかったと思う。
- (会長) 速報値ということだが、今後討議の材料として事務局から詳細が出るか。
- (事務局) ホームページ等でも公開していくのでご覧いただきたい。
- (委員) 開館時間についての質問は、予想通り早い時間帯がよいという方が多い。高齢の方は活動時間が早く朝の要望が強いが、夜は若い方もなかなか来ない。高齢社会になるとこういう要望になるが、現実的に図書館を早い時間に開け

るのは難しい。そのあたりはどうか。

(事務局) 悩ましい点である。これまでの傾向から推測して、新聞雑誌コーナーを利用する方からは早い時間の要望があり、一方で8割以上の方に現状ご支持いただいている状況もある。意見を丁寧に検討しニーズを把握して、常に問題意識を持ちたい。

(会長) 総労働時間の問題があるので、早い遅い両方を実現するのは厳しい。委員の感覚はどうか、お聞かせいただきたい。

(委員) 遅い方がよい。用事が終わってからゆっくりと来たい。

(委員) 現行でよい。自身の体験から、夜は利用が少なく、早朝は雑誌と新聞の利用に特化した人が殺到する。一般の市民の来館頻度(週1回の利用が25%。2週間に1回が30%)で考えて、かなり満足度が高いと読み取れる。個人的には夕方の利用。変える必要性を感じない。

(委員) 遅い方がありがたい。どうしても仕事が19時20時になるので、もう少し遅い方が通える。

(委員) 仕事帰りに寄れるはありがたいが、夜は来ない。早朝開館も職員の出勤時間を考えれば(開館時間の変更は)現実には難しいのでは。

(委員) 現状でよいが、図書館によって変えてもいいかもしれない。

(委員) 個人的には仕事の前、仕事帰りの利用。場所によって開館時間を変えてもよいのでは。

(会長) アンケートについては以上とする。

## 【報告】

事務局より報告。

### 報告事項(4)「令和5年度新館整備予算案の概要」(資料6)

・次年度の案について説明。

(会長) 全ての報告がそろった。(資料4)新館の中で西図書館はすでに開館している。来館した感想などはないか。残り3館に対する意見はいかがか。

(会長) (資料5)休館を経て新サービスが始まったが、実際に利用しての意見などはないか。

(委員) 自動貸出機は子供でも使えるのか。便利な反面、司書が資料に接する機会が減る。ニーズがつかみにくくなるのでは。主に児童サービスでは対面で得る情報、肌感覚が重要。年齢や冊数のデータだけでは真に楽しまれたか確証がない。運用上でフォローできるか。

(会長) 省力化できた分をサービスに充てることが基本。いかがか。

(事務局) ごもったもなご指摘である。図書館員として窓口で得る情報は重要。しかし現状、繁忙の館では貸出返却の処理に追われ顔も上げられないほどの列が発生している。自動化を導入したのは、それらを機械に任せ、司書が図書館らしい仕

事をできるように。導入直後で効果はまだ得られてないが、利用者の問い合わせに十分に答えることができる時間が生まれることを願っている。

- (会長) 引き続き検証をお願いしたい。
- (委員) 受取棚は誰でも入れるコーナーか。予約者以外が手続きせずに本を持ち出すのでは。
- (事務局) 持ち出そうとすると入口の BDS という機械が反応する。無断で持ち出すことはできない仕組み。
- (事務局) 第三者が持ち出す可能性は導入前から把握しており、事前に予約した人のみが受け取れるようシステム上対策をとっている。マナーの面でも利用者呼び掛け協力をお願いしたい。
- (会長) 導入された西図書館の見学に行ったが次々に利用されていた。目の前にカウンターがあり、スタッフはひとりひとりに非常に親切に対応していた。和気あいあいとやり取りしており、よいシステムと感じた。
- (委員) システムが整ってきたことにより職員と利用者とのコミュニケーションが増えるとよい。また、子供が自習席を利用するのに、以前は席が空いておらずあきらめることがあったが、現在は予約できるようになり便利と感じている。
- (会長) 閲覧席の予約も有意義である。機械化 (ICT 化) でギスギスするのではなくむしろ活性化しているのは神戸市の図書館のいい点だと感じる。
- (会長) 資料 6 の新館整備予算案についてはどうか。
- (委員) 資料のことが気にかかる。新しい図書館には古い本がない。古本屋等と提携して今手に入らない優れた本も入れてほしい。傷んだままでは子供は手を伸ばさない。子供のときによいものに会うことは味覚と同じ、その子の土台になる。実際とても手間のかかることだが、せっかく大きな図書館ができるのであればこの点を考慮してほしい。
- (事務局) 現在古書店との取引は神戸市に関する、郷土資料に限定した形。児童書について尋ねたことはなかったが、今後検討したい。
- (会長) 西図書館でもまだ書架に空きがある。1980 年代、70 年代の本も中央図書館より移管し配架してある。公開書庫とって、本来閉架である書庫を開放するのを西図書館でも取り入れており素晴らしいと感じる。
- (事務局) 西図書館は 30 万冊所蔵できるということで、中央図書館に入りきれない本も移管し活用を進めている。
- (会長) 古書としては検討していなかった児童書もこれからその視点が入っていくということだ。
- (委員) 箱ものを作ることが難しい中で神戸市として新しい図書館に力を入れており素晴らしい。地域の活動拠点として、リスキリングなど図書館の役割が大きくなっている。省力化することにより、サービスの向上、情報発信に力を入れ、

より積極的に役割を充実させてもらいたい。ただ資料からは目指すところなど少し分かりにくい部分もある。図書館の方向性についていかがお考えか。

(事務局) 地域によって図書館には特色がある。例えば、新三宮図書館は神戸の玄関口であり、他の地域から来た方にとって神戸の図書館とは、と第一印象づけるもの、役割でなければならない。同時に地域図書館としての役割もつ特殊なものになる。これまでの地域図書館は駅に近く、貸出返却がし易く、家で本を楽しんでもらう傾向であったように思う。今は、面積を広く取り滞在していただく、その場でボランティア活動、学び促進など、座席も多く設けて滞在型の方向である。今までの貸出充実より市民の生活を多方面で豊かにする施設整備を進めている。

(委員) 中身の充実を期待する。

(会長) 住宅情報誌の記事を持参した。西図書館・名谷図書館が紹介されている。家を買うなら図書館のあるところ、滞在型をコンセプトにしている。西図書館の3階には、まさに学び直し（リスキリング）のコーナーがある。まさに時代感覚にフィットしたのを作っている。

(委員) 都市から神戸に帰ってきて、一番いいなと感じたのは図書館が地域密着型ということ。不満だと感じたことは郷土資料が少ないこと。神戸は震災があったが、神戸を離れている間のギャップを埋めるため故郷を調べるのにも資料が少ない。一般に流通するものでない資料、各学校等に眠っている郷土資料も吸い上げて永久保存するようになるとか、地域の武器にしてほしい。図書館が一つの町の活性化の窓口になる。長い年月がかかることは承知しているが、まずは地域の資料を保存する、整えていただくよう願っている。

(事務局) 流通しているものから、また新聞等にとりあげられた自費出版のものを寄贈として収集。その範囲で手に入るものはかなり揃っていると自負している。ただ、学校で作られた文集などは収集していない。著作権の問題もある。学校から申し出があった際はその都度検討しなければならない課題である。

(委員) 膨大な量だと思われる。全校配置された学校司書に一時選抜を任せるなど、実現できるかもしれない。

(事務局) 郷土資料の収集、地域の歴史を保存し後世に伝える、司書の仕事の大事な点である。これまで中央図書館では、郷土資料を積極的に収集し管理することで、確実に残している。また、地域館でもスペース問題を解決しながら収集していきたい。

(委員) 人と防災未来センターの資料が充実しているが、連携は。

(事務局) 人と防災未来センターも資料お持ちで、神戸大学にも震災文庫がある。年に一度調査相談ライン係長が、神戸大学が取りまとめている会議に出席し情報共有している。具体的な資料のやり取りは現在ないが、お申し出により図書館以外

の所蔵をお調べすることは可能である。

(会長) 神戸大学の震災文庫は災害関係のデジタルアーカイブとして世界的にも評価されている。その後各地で仮設住宅を建てる際や様々に利用されている。神戸市立図書館のレファレンスでも神戸大学の震災文庫など活用しているだろう。地域資料について新しい図書館での新しい取り組みにも期待したい。

(会長) 本日の議事は全て終了した。これにて図書館協議会第 8 期第 1 回目を終了する。委員の皆様ありがとうございました。

**【閉会】**

(事務局) 次回は 8 月に開催を予定している。事務局より日程調整の連絡をするのでお願いしたい。